

午後14時30分 開始

【広報広聴課長】 お待たせをいたしました。定刻の時間となりましたので、平成22年度最初であります4月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

最初にお知らせを申し上げます。記者クラブの方に異動がございました。そこで本日からこの会見に参加されます方が3名ございます。その方々を最初にご紹介申し上げます。一言ずつ、ごあいさつをどうぞお願いします。

【記者】（記者あいさつ）

【広報広聴課長】 ありがとうございます。お3人さん、よろしくお願い申し上げます。

本日は、ただいまご紹介申し上げましたとおり初めてこの会見に参加される方がおられますので、こちらより協力していただきたいことを先に申し上げたいと思います。

この会見につきましては、市のホームページ上で公開するなどにより録音をいたしております。発言の内容を鮮明に録音するために、発言される場合は必ずお手元のマイクを使用しての発言をお願いいたします。発言の際にはマイクのスイッチを入れていただきたいと思うんですが、マイクのスイッチは、マイクの下の方にある銀色のボタンになっておりますので、そのボタンを押しますと赤いランプがつかます。そうして発言をしていただきたいと思います。発言が終わりましたなら、またスイッチを切っていただきたいと思います。よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

本日の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後、事業発表をいたしたいと思います。質問につきましては、最初は事業発表項目についてお願いいたします。その発表項目に係る質疑終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したく思っておりますので、ご協力よろしくをお願いいたします。

終了は15時30分を予定いたしておりますので、皆様方のご協力よろしくお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 それでは、新年度もいよいよスタートということでございまして、私どもも新しい職員も入ってまいりました。また、異動によりまして、それぞれの部署かわったところがございますけれども、職員、私どもも一丸となってまちづくりに励んでいきたい、決意を新たにいたしているところであります。

記者の皆さん方も新しい方がお見えになったところでございまして、敦賀市は非常に話題の多いところということで、やりがいがあるという声も聞いておりますけれども、明るい話題を極力提供しながら頑張っていきたい、このように思っております。

その一つが敦賀気比高校のセンバツ出場、そしてベスト8という活躍をしていただいたところでございまして、昨日、日大三高に10対0で敗れたところでございますけれども、今日も日大三高と広陵とのすさまじい試合がございまして、たしか14対9までいったということでございますが、そういう強豪チームと、あとは投手力が一つの課題かなということが浮かんたところでもありますので、夏に向けてまた敦賀気比に頑張っていたいただければなというふうに思っているところであります。

スポーツの活躍の話題というのは、非常に市民の皆さん方にとりましても明るい話題提供になったわけでございます。私ども市行政といたしましても、極力まちづくり、またいろんな点において明るい話題が提供できるように、この1年も頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、あと座って事業等の発表をさせていただきます。

まず1番目でありますけれども、金ヶ崎千本桜・花換まつりの開催であります。これは、私どもの桜の名所であります金崎宮を中心としたところでの花換まつりでありますけれども、花換まつりなんて非常に特殊な祭りではないかなというように思います。何か花屋さんがいっぱい並んで花をかうてくれというような祭りに勘違いする人もいるかもしれませんが、花を交換して男女の一つの出会いの場であったという逸話などもあるわけがございます。天候が少し不順でありまして、実はもう今夜ライトアップの点灯式が行われますけれども、少し天気の方が心配であります。スケジュール、日程等につきましては、ここにパンフレットをお配りしてございますので、またごらんになっていただきたい、このように思うところであります。

2番目に敦賀湾フェリーのクルージングであります。これも資料をお手元に配付してございますけれども、やはり私も港まちでありまして、非常に大きな白い豪華客船、フェリーが似合う港でありますし、また船にとってもいい港だというふうに思っているところであります。そういう意味で、今年ちょうど開港111周年ということもございまして、こういうクルージング、また夏にも人道の港クルーズということで、これは民間が行います利尻、また礼文島へのクルーズ、そして、ねぶた祭りへ行きます東北のコースということでのクルーズなども応援をする企画であります。基本的には民間の皆さん方の力の中で、私も参加する市民の皆さんに補助金という形で応援をしながら船旅を楽しんでいただく。また人道の港クルーズのほうにおきましては、県外からお越しになるお客さん方にも商品券をお配りして、これは船内で敦賀の名産品を買う場合に使用できるというような商品券などもお一人様2,000円分をプレゼントしまして、敦賀の名産品なども知っていただく、そのような機会にしたいなというふうに思っておるところでございます。今後とも敦賀の港を十分に活用したクルーズ客船などの運航などにもしっかりと取り組み、港まち敦賀というものをPRしていきたい、このように思っておるところであります。

同じく関連いたしますけれども、みなとオアシスのにぎわい創出事業ということでありまして、それがクルージングで、私も一遍に言ってしまいましたけれども、3番目のみなとオアシスの創出事業が日本海クルーズ客船のことでございます。

ということで、一遍に済んでしまいました。以上であります。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

それでは、最初に幹事社から質問を受けたいと思います。

【記者】 1点だけ。花換まつり、男女の出会いということで、県事業でも男女の出会いに随分力を入れておられますが、敦賀市として、花換ということで特に何か男女の出会い関係で今後する予定とか。

【市長】 今、特に少子化対策の一環でもありましようし、どうしても婚期がかなり遅くなってきたということで、その一つの原因として、なかなか出会いの場がないという声なども聞いております。県のほうもそういう取り組みをやっておりますし、私も何かそういうことができないのかなというふうに考えた時期もあつたんですけれども、なかなか行政主導では若い人たちも乗ってくれないのも現状かなということもかんがみながら、花換まつり自体が、昔は要するに花を、今はそんなことをしてはいかんですけれども桜の小枝を折って、花を持ってそのところへ行って、男からすれば気に入ったかわいい女性がいたときに花を換えましようということで、花を交換するということがいいですよという意味だったというふうに私は聞いているんですけれども。そういうことで、よくテレビ番組などでも、かなり古いですけども、ねるとん何々とかいうような番組の中で、出会いのいろんな番組があつたやつを当時、花換まつりに誘致をしてやったらどうだというようなことも考えた時期はありました。今そういうようなことはどうだというご提案もいただきましたので、花換まつりの中で一度そういうことも含めた出会いの場所という意味、本来の意味でありますので、今年はまだ間に合いませんが、ぜひ来年あたりにそういう男女の出会いの場所としての花換まつりもPRをしたらいいなというふうに思います。やはり一番いいのは、マスコミの皆さん方、特にテレビに取り上げていただいてPRすることが一番多うございますし、そういう企画などももし地元の福井テレビさん、福井放送さん、またNHKさんなどでもやっていただいて、金ヶ崎の中でそのような番組でもできればこれは一番いいなというふうに思いますので、またこちらからもお願いしたいなというふうに思います。非常に男と女の出会いのいい場所の花換まつりだというふうに思っております。そういうことを意識しながら今後企画したいなというふうに思います。

【広報広聴課長】 それでは、各社、発表項目につきましての質問がございましたら挙手をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

それでは、ないようでございますので、次第の3番目に移りたいと思います。次第の3番目、フリーの質疑応答でございます。

これも最初に、幹事社からお願いしたいと思います。

【記者】 新年度に入ったということで、今年1年どのような行政運営をやられるかというのを伺いたい。

【市長】 先ほどもごあいさつさせていただきましたけれども、ちょうど私4期目の最後の年になるわけでありまして。第5次総合計画をやはりしっかりと仕上げていく。それと第6次総合計画をしっかりと立案して計画を立てていくという年でございますので、そういう意味においては、しっかりと行政運営を行っていききたいなというふうに思っているところでございます。一つの仕上げの年と、また次に向かってのスタートの年になるのではないかなという位置づけで、職員の皆さん方とともに力を合わせて頑張っていきたい、このように思っております。

【記者】 もう一つ別の質問になるんですが、原子力機構さんはもんじゅの運転再開工程、2から3月を目指しておりましたが、結局4月にずれ込んでおります。この状況をどう思われますか。

【市長】 これは県の立場の中で、耐震性の安全を確認する専門委員会のほうもまだ最終的に終わっていないということでございますので、やはり県の立場の中で、しっかりと自分たちで安全を確認してから、運転再開の判断がされるというふうに思っております。やはり安全というものが何よりも最優先でありますので、そういう県の立場は理解できるものであります。

ただ、私どもの社会の仕組みというのは一つの4月がスタートの時になるわけでありまして、機構側とすればそれに合わせて、また国のほうも合わせて運転を再開したいという思いはあったというふうに存じますけれども、それはそれとしておきながら、やはり安全をしっかりと確認して、これから国と私どもは県と十分に相談をしながら、また運転再開の判断というものはしていかなくてはならぬというふうに思っております。

【広報広聴課長】 それでは各社の質問ありましたら挙手をお願いしたいと思います。

【記者】 先ほどから県と相談してからと、もんじゅの再開についておっしゃっているんですけれども、県はかなり地域振興というところを強く言っていますよね。特に新幹線だけじゃなくて、例えば敦賀港の話ですとか、この前の県議会で出た意見書の中身だけ見てもかなり多岐にわたりますよね。それを3者協議で全部のませるというのもなかなか難しい話かなというふうに思うんですけれども、市長自身は、その辺、県がかなり地域振興にこだわっているというところについてはどういうふうに考えているんですか。

【市長】 同じ福井県の中にあります私ども敦賀市でありますし、特に港湾、そして新幹線、それぞれ私どもにとっても非常に重要な課題であります。そういう観点から、私どもは何度も言いますが、敦賀市としては、これをしなくてはこれを認めないとかというそういう方向は持っておりませんが、やはり地域振興としてできる限りそういうものが実現していくことは非常に望ましいというふうに思っているところであります。

そういう観点で、県は県の立場の中で、そういうことを県議会も採択はされ、意見書として出しておられますし、また知事もいろんな皆さん方とお会いし、特に国を挙げて、要するに国土交通省だけ、文部科学省のみならず、経済産業省のみならず、国を挙げて応援をして欲しいというようなこともおっしゃっておりますので、そういうことが実現できれば、これは非常に結構なことだなというふうには思います。

ただ、すべてをのまないで運転がどうのこうのという部分は、また私は別ではないかなというふうに思っておりますし、地域振興についても私どもも先ほど言いましたように私どもの希望するところがございますので、十分国などにもお願いをし、そのあたりは県と協力をして実現に向けて頑張っていきたいとは思っております。

【記者】 新幹線についても港湾についても本来なら国土交通省に要望すべきだと思うんですね。だって担当官庁は国土交通省ですから。それをそもそも文部科学省と経済産業省との3者協議で地域振興の要望として出してくるというのは、ある意味なかなか県外の人から見ると何でなのかというのが正直よくわからないところがあるんです。だからこそ、いわゆるバーターみたいな話が出てきているわけで。だから全く文部科学省、経済産業省のあれとはお門違いな新幹線なり港湾という話を文部科学省と経済産業省に持っていくというところについては、市長はどうお考えですか。逆に市長自身が要望するとなれば、どこに行きますか。

【市長】 原子力は、いつも言っておりますけれども国策、国の一つの重要な取り組みでありまして、取り組まなくてはならぬ。特に環境問題の中で、原子力というものは大事で

あるという今の現政権、民主党政権の中にも位置づけられております。そういう中で、民主党政権の中にあるそれぞれの担当、例えば国土交通省、経済産業省、文部科学省という一つの部署でありますので、そういう意味では政権としてエネルギー、セキュリティを含めたものをしっかり確保するために原子力はやらなくてはならぬ。原子力をやるために、もんじゅというものは、これからのいろんな研究を進める大事な機関でありますので、これも国としてやるということを明言されておりますので、そういう点では、もちろんこれは民主党本部といいますか、そういうところにもお願いしなくてはなりませんし、その大臣というのはそれぞれ党の方でございますので、そういう意味で、特に原子力は今、文部科学省なり、また経済産業省というのが一つの窓口になっておりますから、その窓口を頼ってそういう話をされているというふうに存じますが、やはり政府挙げてそういう問題に対処していただければ一番ありがたい、このように思っております。

恐らく知事のほうも両大臣ともお会いはされると思いますけれども、また党のほうに対してもそういう要望、また私どもも地域戦略局がございますので、そういうような要望もあわせて戦略局にも行っていきたいなというふうに思っております。もう現にそういう要望活動はさせていただいているところであります。

【記者】 ちょっと追加で、市政会のほうからこの前の議会のときに、県議会のやり方に対してすごく地元として抗議するという話が出ましたよね。地元の意思とはかけ離れていると。あくまでももんじゅを取引のように使うということについては。

市長はどうなんですか。今、県はもんじゅを取引に使っているというふうに見ているんですか。どうですか。

【市長】 取引にというか、お願いということだと存じますけれども、例えばはっきりと地域振興なり新幹線を持ってこなかったらもんじゅは動かさないとはいってないわけありますので、そういう点では直接の取引とは思ってはおりませんが、要望としての県なり私どもの地域の重要な地域振興に対して心から応援をしてほしいと、何とかしてほしいという、そういう気持ちのあらわれだというふうに思います。

【記者】 先月の終わりですか、電源立地地域対策交付金の使い道の拡充という話が報道で出ましたけれども、市長ご自身は、あれについてはどのようにお考えになりますか。

【市長】 この要望につきましては、実は全原協としてかねがね要望させていただいた事柄でありますし、先月でしたか、益子副大臣もお見えになったときに、私どももそういう要望をさせていただきました。そこで今回、使途を拡大ということでの話をいただいたところではございます。ある程度評価できる部分もあります。ただ細かくいきますと、まだそう大きな前進はないなと。1歩2歩前進したなという思いでありまして、今後とも今まで従来からお願いしていることにつきましては、引き続いてそういう要望はしていきたいなと思っております。

【記者】 今の関連になるんですが、まだ1歩2歩の前進であるということ、恐らくまだ足りないというふうなお考えだと思うんですが、具体的にどういうふうになって欲しいとお考えでしょうか。

【市長】 例えば、各省庁の了解を得なくてはならぬという前提などは実は変わっていないんです。ということは、例えば国の補助率のことも出ていましたけれども、さっき言いましたように、そういう国の前提のあれがないとできないということは、やはり条件つきという形になりますから、そういう面では条件なしで充た可能となればこれは非常にありがたいなと思っております。具体的にいうと、そういうところもでございます。

【記者】 先ほどのもんじゅの質問に戻るんですが、市長も前々からおっしゃっているように、もんじゅの役割というのを考えると、研究を再び始めて、ちゃんと実績を上げてこそその役割を果たせるのではないかということをおっしゃっていると思うんですが、今の県のやり方ですと、結局、3月という取り決めはとれてしまったわけでし、余りむやみやたらにどこまでどんどん行っちゃうのかなという危惧もあるんですが、市長としては、その辺どう決着をつけるといいなと思われるか。要は、だらだらし過ぎないほうがいいと思っていられるのか、それとも県なりにとことんやればいいと思っていられるのか、その辺、地元の市長としてどう思われているのかなと。

【市長】 私ども聞き及ぶところによると、知事もそう時間をかけないというようなお話

もされておりましたので、県の耐震安全性の専門委員会が終了し、その後、恐らく文部科学大臣への3者協議をやられることであるというふうに住じます。そういうところで話をされ、速やかに判断をしていただければいいなと思います。むやみに引き延ばしていくということは好ましいとは思いません。

【記者】 好ましいとは思わない最大の理由というのは、どういうところですかね。余り延ばすとよくないというのはどの辺。

【市長】 前も言いましたけれども、原子力機構のそれぞれの職員さん初め関係の皆さん方にしても、いよいよ運転を再開しようということ非常に気持ちもしっかりと持ちながらまとまって取り組もうとしておりますし、やはりああいう研究、例えばもんじゅの大きなプラントを動かすには、やはり人でありますから、人の気持ちが大事だというふうに思っております。そういう中でむやみに、いつまた始まるのかなというような気持ちを持たずこと自体、非常に私はマイナスに働くというふうに思いますので、そういう意味では、そういう状況にならないうちに、やはりしっかりと国としての方針、また県としての方針、私ども市としての方針を示してあげることがベストだと思っております。

【記者】 今、もんじゅの関係でお話が出た3者協議なんですけれども、市長自身はそういった場に参加したりとか、あるいは別の形で経済産業、文部科学の大臣と会談というか、考えておられますか。

【市長】 3者協議は知事のほうで提案をされて行うものだというふうに思いますし、仮に私も出てこいというようなことがあれば、時間があれば参画したいというふうに思いますけれども、私ども前も例えばもんじゅが運転再開になったときには、最後は文部科学大臣がお見えになって、そういう意思が伝えられる状況になるというふうに思いますので、そのときにやはり、こういう問題もありますので文部科学大臣のお立場の中でぜひ応援はしてほしいというようなお話ししていきたいなと思っております。

【記者】 特に、それは時期的にいつごろとかいうことは考えておられますか。

【市長】 3者協議のですか。

【記者】 要するに、文部科学大臣と会う時期という。

【市長】 それは、恐らく知事との3者協議が終わった後になるというふうに思いますので、そういうものが終われば、そう時間を置かずにお見えになっていただければとは思いますが。

【記者】 今の話の続きなんですけど、いつも取材の際に同じことばかり聞いているんですけども。

市長は、もんじゅの運転再開については、市議会の声、それと原子力懇談会の声などを聞いた上で判断したいとおっしゃっていて、3者協議が今後ある中で県と調整していきたいというふうな発言もあって。私いつもちょっとまだつかめないでいるんですけども、敦賀市として、あるいは敦賀市の市長として、もんじゅに対しての判断というのは独自に出すということはないんですか。

【市長】 私どもは皆さん方もお察しのように、概ね市議会、懇談会の中でも運転再開については異議がないという意見が大方でしたので、そのような気持ちを持っておりますし、私どもは、これをしなくてはあれをしないという条件ではありませんが、ただ単独で私どもが認めなくても、これはどうすることもできないことでもあります。これは県も了承しなくてはならないところでもありますので。そういう観点から、単独で敦賀市はいいですよと言ったところで全く実現するものでもありませんから、そういう点では県と調整をして、時期を見てしっかりと判断をしていきたい。

ただ、敦賀市としてもお願いといいますか、そういうもののお話などはさせていただく時間ということで、大臣などもお越しになったときには少しお話ししたいなというふうに思っております。

【記者】 西川知事の考えも片一方にあるでしょうから、そちらのあたりもやはり見ながら時期は判断すると。

【市長】 知事のほうも、そう長くないという、待たせないということでもありますので、いましばらくのことでもありますから、いろんな国の状況、県の状況を見きわめる必要もあるのかなと思っております。

【記者】 文部科学大臣と会われるときというのは、運転再開に了解しますよというのを伝えるときになるんですか。それとも了解した後に、文部科学大臣がお礼に来るといふか、そういうときになるんでしょうか。

【市長】 今までのいろんな状況でいくと、やはりその責任者の方がお見えになって、運転再開を例えばしたい、これをつくりたいけれどもと来たときに、私どもとしてはいいですよというような話が最初になるのではないかなと思うんですけども。地元了解をいただくということで、責任者の方がお見えになるのが普通だったのではないかなと記憶しています。

そこで正式にいいですよとお答えしませんが、まず今のところ正式に来ていないものから、今、記者さん言われるように、いいですよ、いいですよという答えはまだ出ないということです。どうですかと来たときに、私もいろんなことを聞いて、議会のお話を聞いて、結構ですよということはそこで正式に出るといふふうに思います。

【記者】 この間、副大臣が来られたときには、今市長おっしゃった概ねということで伝えているわけですよね。

先ほど敦賀市が単独で言ってもというお話ありましたが、でも本当の地元の地元なんですから、私、それほど敦賀市の意見というのが軽く見られることはないと思うんですけども、その辺いかがですか。

【市長】 それはもちろん例えば逆のパターンもありまして、例えば県としてはいいけれども、いや地元としてはということもありますので、そのあたりは同じ自治体の中での一つの自治体でありましようけれども、独立した一つの判断を持てるところでございます。そういう意味でも、正式な形で来たときに敦賀市としての気持ちをまず責任者に伝えるということ。その過程だけ経まないと、まだ来てないのに、いいんです、いいんですといふふうに言うわけにはいかんかなと思っています。

【記者】 中川副大臣が来られたときにも同じようにお聞きしたんですけども、文部科学大臣と、今までの流れからいけば最後は文部科学大臣が来られるのではないかというふうに市長おっしゃっているんですが、要は文部科学大臣が来ないと了解は言わないよというそういう条件じゃないというのは、それは違いますよね。そういう条件ではないんですよ。

【市長】 条件とかではありませんけれども、普通の今までのいろんなパターンでいくと、最後はそういう形で了解を得に来られるというふうに思いますので、そこで正式に了解するなら了解しますよ、だめならだめですよということを伝えなくてはならんかなと思っておりますので、そういうところは恐らく、もちろん知事に対してもそうでしょうけれども、敦賀市に対してもそういう形で来られると思います。

【記者】 了解する日があって、その日に来るといふことですね。3者協議と了解の日の間に、別に大臣との会談を敦賀とかで持ちたい、そういう意味ではなく、了解の日に来られるであろう、来て欲しいということですよ。

【市長】 日程的にはまだ詰めてはいないんですけども、恐らくそういう形になってくるのではないかと思います。

【記者】 頭の中を一生懸命整理しながら聞いていたんですけども、市長が市長としてのもんじゅの運転再開を判断して伝える相手というのは、まず最初は知事なんですか、それとも文部科学大臣なんですか、どちらなんですか。

【市長】 ある程度、敦賀市の状況というのは、これは新聞報道で議会の様子等も全部出ていますから、どのように判断するかということは知事部局も理解されていることだといふふうに思います。でもやはり形式的には知事のほうから敦賀市長、じゃどうしようかと言ったときに、敦賀市としてはこうですよとお伝えをする。知事もそうかということで、国が来たときにこうやろうかということで話がまとまって、最後に責任者が来たときに、敦賀市としてはこうやりましょう、福井県としてもわかりましたとかこうやりましょうという形で進んでいくのではないかなと思うんですけども。

【記者】 その責任者というのは文部科学大臣ですか。

【市長】 恐らくもんじゅの最終的な責任を持つ人は、もちろん原子力機構の理事長でありますけれども、文部科学大臣だと私は思いますけれども。

【記者】 先ほどの運転再開が長引けばというお話の中で、いつ始まるかというのはマイナスに働くというお話ございましたよね。ただ機構に関しては、これまで5回工程を示していて、自分でこけていた面ありますよね。マイナスに本当に働くんですか。自分でこけて、ずっと延びてきて。

【市長】 私どもいろいろ現場へ、行った時期はたちますし、またついせんだって副大臣のほうも行かれたということで、いろんな現場の雰囲気などを仄聞する限りは、やはりいよいよやるぞというように気持ちで、今、機構の職員の皆さん方、関係の皆さん方は非常に思っておられるというふうにお聞きをしております、一時は年度内運転再開かというような文面も新聞紙上に出たところでございます。そういう観点を考えますと、やはり皆さん方は、いろんな過去の経緯はあるというふうに思いますけれども、現時点ではそれなりの気持ちを持って、大きな日本にとっても大事な研究をやっていくもんじゅというものを立ち上げようという気持ちで臨んでおられることは間違いのないというふうに思います。そういう点で、これがいつになるのかということがはっきりしないということは、恐らくいろんなスポーツでも延びた、延びた、いつ試合があるんだろうというのと、やはりしっかり決まるのではモチベーションが変わってきますので、そういう点から、いつまでもわからないままずるずる延びるということは余りいい方向には働かないような気はいたします。

【記者】 今、モチベーションというお話なんですけれども、もんじゅはいくまでもモチベーションとしては、安全に、なおかつ研究開発するというので、起動することが目的じゃないと思うんですよ。その辺どう思われますか。

【市長】 起動しないと研究ができないということでもありますので、研究をする第一歩として、あれを動かしていくということは研究の第一歩になりますので、これは極めて研究者という立場からいけば、動かすということは重要なことではないかというふうに推察はいたします。

【記者】 ただ、研究は今後10年続くんですよね。この日だけで切れてもらっては困るとお考えではないんですか。

【市長】 もちろんずっとそういう気持ちは持ち続けていかななくてはなりませんし、安全、安心ということは片時も忘れることなく、私いつも言うておりますように安全にゴールというものはありませんので、そういうものをしっかりと持ち続けていくことは当然のことです。

【記者】 つまり安全についてしっかり持っていただくのが当然だったら、別に焦る必要もないと思うんですよね。

【市長】 焦る必要がないから、今までいろんなところの国、安全・保安院、原子力委員会、それぞれの専門家の皆さん方がそれぞれ議論を尽くしてきて、最後に県のほうでも安全委員会を開いて、結論が出ていないんです。結論が出れば、速やかに前へ進むべきではないかと私は思っております。十分に安全に関しては議論は今されてきているというふうに思います。

【記者】 市長がイメージされているのだと、多分前回の改造工事のときのことなのかという印象を受けているんですけれども。あのときも国が了解してから県が了解するまでたしか1年以上たっているんですよね、あのとき。多分福井駅の着工と引きかえに了解するみたいなことになって、あの間、国は要は改造工事をやってもいいということで委員会も認めたんですけれども、そこから地元がなかなか認めなかったからなかなか改造工事に着手できなかった。たしかあれ1年以上ずっと延びていたような記憶があるんですけれども。今、いたずらに延ばすべきではないというのは、やっぱりあのときの改造工事のことなんかも念頭に置いて考えていらっしゃるんですか。

【市長】 改造工事の今お話を思い出していただいて、そうだったかなと思えますけれども、別にそういうことは念頭には置いてはおりませんが、やはり安全性が最終的に確認されれば、先ほど言いましたように国として、また世界のエネルギー事情をしっかりとこれから担うことを研究する一つの機関でありますので、やはり速やかに運転が再開されて研究が始まるのが本来のもんじゅの姿に戻るだけでありますので、そういうことは大事かなと思います。

【記者】 だから結局これからの工程でネックになっていくのは3者協議であって、これで文部科学省と経済産業省が知事に対してどういう回答をするかというところが一つの焦点になってくるのかなと思うんですけども、一方で市長のほうは、そんなにいたずらに延ばすべきではないと思っているわけですよ。ただなかなか実際に要望してくる内容があれだけ多岐にわたっていて、全部オーケーですよみたいななかなか回答も得づらいというときに、それこそ延ばして延ばして、さっき市長がおっしゃっていた先の見えない状況にどんどん行って、いつ判断するのかわからない。結局、市長がおっしゃっているのはそういうことなのかなと思っているんですけども。要は、先が見えないでどんどん延びていくというのは、地域振興ということで県が要望していますよね。ですけども、その要望に対しての回答の中身。知事は具体的に示される必要があるみたいなことを言っているじゃないですか、ある程度。そこら辺で実際に昔、改造工事のときにはあれだけ延びているわけですよ。国の了解から地元の了解まで。そういうふうには地域振興に対する回答がうまいこと得られないから、ずるずるどんどん判断時期が延びていくということについては、どうお考えですか。

【市長】 それは好ましくないというふうに思いますし。ただ、3者協議というのは、知事と文部科学大臣と経済産業大臣ですから、経済産業大臣が新幹線を確約はできないと思います。前原国土交通大臣とお会いしないと、新幹線はやりませんと、必ずやりませんからということをお話しできませんので、恐らく回答的には、最大の努力をしましょう、省としても応援をしますという答えしか得られずはざがないんです。文部科学大臣にお会いしても、経済産業大臣にお会いしても絶対に確約はとれませんから。それよりも先ほど言いましたように民主党政権の党のところとパイプをつないでいただいて、そこから答えを引き出すかのどちらかしかありませんので、そのあたりはまた状況を見なくてはなりませんけれども、そういう点から3者協議というのは、ある程度全部の答えを持ってくる、こないというよりも、やはり国がどのような真摯な態度で福井県に対して、また地元に対して望んでいるかということを見きわめる一つの場所ではないかなと私は想像しておりますけれども。

【記者】 仮定の話ですけども、例えば7月に新幹線の結論出ますというふうになっていきますよね。例えばそこまで引っ張るとか。あんまりそういうところは市長としても想定していないということですか。

【市長】 今まで知事の談話等を聞く限りは、そこまで、そう時間はかけないというのは、私は大体1カ月以内、時間をかけないというのは。結論がありますので、県の安全委員会にはよりますけれども、その結論が出たら恐らく1週間以内には3者協議に行くような話ではないかなと想像はしています。全くお話しは聞いていませんので、想像だけですけども。

【記者】 3者協議を持つことは確かにあれなんですけれども、要は3者協議の結果どうなったかということぐらい待つのかという、そこをお聞きしているんですけども。

【市長】 それは知事の判断ですので、私は何ともわかりません。

【記者】 じゃ確認ですけども、県の委員会で結論出たら、早い時期に3者協議は持つだろうというところまでは、市長はそう想定されているんですね。

【市長】 そうですね。

【記者】 その回答がどうか、実際にどうか。要望した中身、例えば敦賀港とか新幹線とか、そういうのを具体的にどうだということまでは待たずにいくんじゃないかと。

【市長】 だから、3者協議の中では結論は出ないと思います。国土交通大臣にお会いして、話は別ですけども、そこでどういう話になるか。また大臣のところと一緒に国土交通大臣のところに行って話をするのか、そのあたりはわかりませんが、まず安全性の確認をして3者協議を行っていただくのが一番いいと思います。その後は、それが終われば、そう時間かからずに出すべきだと思います。

【記者】 先ほどから新幹線の話が出ていますのでお伺いしたいんですが、昨年の衆議院選挙では、若狭ルート、小浜通って舞鶴という話と、一般的に米原という話と。敦賀市としてはどちらを希望なんですか。

【市長】 私、新幹線というのは、まず敦賀までは基本的なので、その先のことについて

は、これは国が決めるべきだと思っています。地元ではなくて。といいますのは北陸新幹線、確かにリニアの話も出ていますが、東海道新幹線の代替ルートでありますから、やはり国として国の安全、セキュリティをしっかりと防災上、特に東海・東南海地震というのはそう遠くない時期に起こると言われておりますので、それが起こる前に、要するに大阪につないでおかなくてはならんことでもありますので。これはもともと閣議決定ということで若狭ルートで決まっておりますけれども、国がいま一度、新幹線はどうあるべきか、国家として、国家を守るためにどうあるべきかということを考え、地元、逆にいえばこっちにつけたいというふうに言ってきたら、それぞれの地元がまた判断すべきことだと思いますので。私どもは、あちらがいい、こちらがいいということは思いませんけれども、米原につないだほうが安くできるのかなということは誰が見てもわかることですね。

【広報広聴課長】 ほかにございますでしょうか。

ないようでしたら、これにて4月の定例記者会見は終わりにしたいと思います。

ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

午後3時15分 終了